

2025年度 解答速報

久留米附設中学校入試【理科】

2025年 1月25日実施

理 科

1

(1) ク (2) キ (3) ウ (4) ア (5) カ (6) イ (7) オ (8) エ

2

あ 道管 い 気孔 (こう) う 糖 (ブドウ糖, ショ糖も可) え 師管

お でんぷん (デンプン) か 呼吸 き 対照

ア B イ B ウ A エ D オ B カ A キ B ク C ケ D コ B

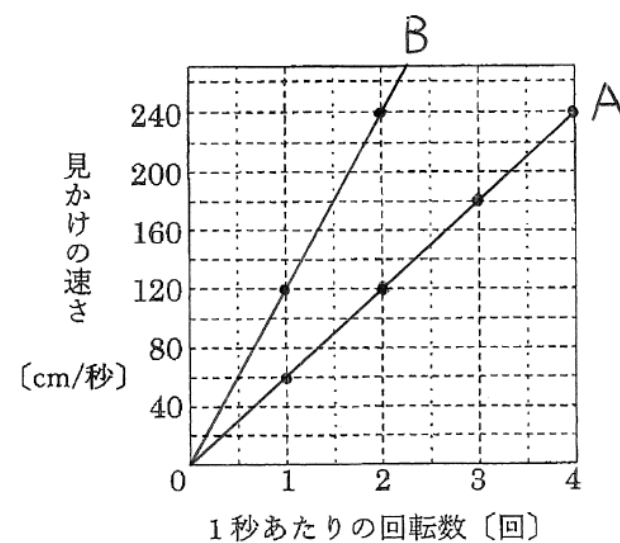
サ C シ D ス B セ A ソ C タ A チ C ツ B テ A ト B

ナ D ニ B ヌ B ネ C ノ C ハ D

3

問1 あ ア い 4秒 う 15 cm/秒 え 0.5秒 お 2回転
か 90 cm/秒

問2 30 cm/秒 問3 右図



4

問1 7.3℃

問2 水酸化ナトリウム水溶液と塩酸を同じ体積で混合したときの温度上昇が6.90℃と、他の割合で混合したときに比べ、もっとも温度上昇が大きいから。(同意可)

*厳密な正解は下記のようになる。

混合した塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の体積が (50, 150), (100, 100), (150, 50) のとき、温度上昇は 3.45 : 6.90 : 3.45 = 1 : 2 : 1 となっており、これを横軸に混合液 200 cm³中の塩酸の体積、縦軸に温度上昇をとったグラフにすれば、(100, 100) が中和点と分かるから。

問3 ① 5.5 ② 5.5 問4 (塩酸が) 一部反応せずに余り、酸性になっているから。

問5 ③ 30.3 ④ 16.5 ⑤ 24.8

【講評】

例年通り大問数が4題、物理、化学、生物、地学の4分野からの出題である。生物、地学の問題は、最近の傾向通り基本的な知識を問う問題だったが、物理、化学の問題の難易度は、ここ3、4年よりやや上がったと思われる。

1 地学分野の正誤問題。基本的な文章だが、一つ一つの語句を注意深く読み取り、誤りを見つけ出す必要がある。

2 生物分野の光合成に関する問題。語句記述と記号選択が不規則に織り交ぜられており、慣れていない受験生にとっては取り組みにくい印象を持っただろう。今年度は全体的に、基本的な内容の出題が多かった。

3 物理分野は「サインポールの見え方」に関する出題であった。久留米附設中としては珍しい会話形式の問題であり、「サインポール」という身近なものを題材としているものの、動きがうまくイメージできずに戸惑った受験生も多かったと思われる。

4 化学分野の溶解熱と中和熱に関する問題。問2の文章記述の問題は「表2の数値を用いて」という指定があったため、書きづらく感じた受験生も多かったと思われる。また、計算問題の答えはすべて「小数第1位まで」という指定があった。見落とさないような注意力が必要であった。全体的に難易度は高い。